

next toilet→

また行きたくなる、「私をアップデートする」空間

01 トイレ空間の現状と、可能性

01-1. 公共トイレの問題〈また行きたくない場所〉

誰もが利用可能な、都市に点在する公共トイレは、人々の生理現象を支える場所でありながら、隅々まで管理が行き届かず、衛生面や安全面が十分に確保できていないものが多く存在する。そのため、利用をためらう人も多く、都市生活の快適さを下げている課題がある。

01-2. 公共トイレの可能性〈個人スペースの提供と広告能力〉

一方で、都市に点在するトイレは、慌ただしい日常の中で、一息ついたり、一人になれる貴重な時間・空間でもある。実際に身だしなみや心を整えるなど、**自分をリセットする場**として、活用する人もいる。そのため、個性豊かなトイレや一人の時間を狙った広告など、トイレを**表現・発信の場**として有効活用する例も多く見られる。



02 Concept : また行きたくなる、「私をアップデートする」トイレ空間の提案

「次の予定は、あのトイレに寄ってから…」



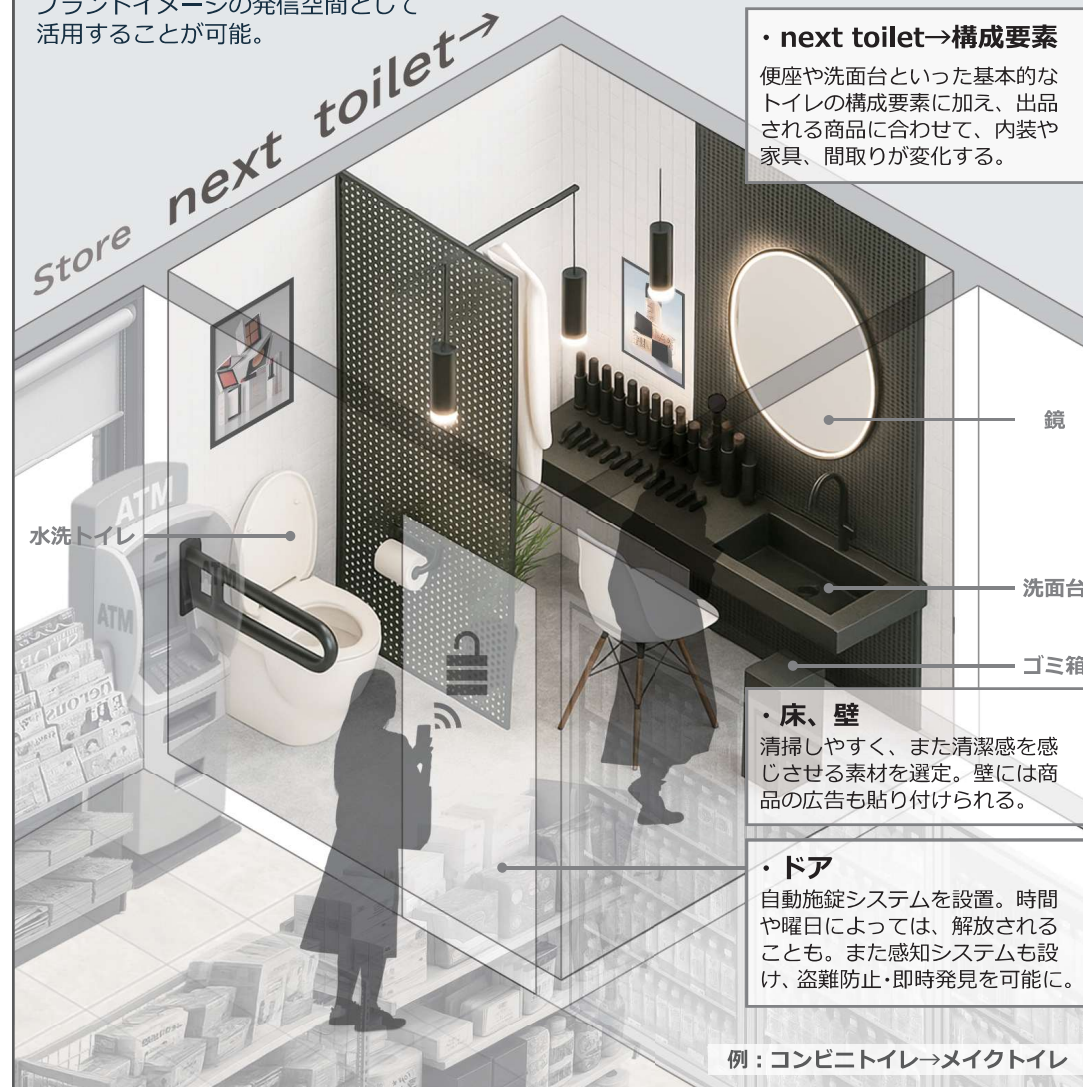
「next toilet→」は、単なる“用を足す場所”ではなく、“自分をアップデートするための都市の中継地点”として再定義したトイレ空間である。

清潔さや利便性に留まらず、トイレ毎に異なる様々な特徴やデザインによって心身を整え、外出中にアップデートできる時間・場所を提供する。サブスク制により誰もが安心して使えるパーソナルな空間を都市に点在させ、スポンサー企業はこの空間を広告メディアとして活用し、新たな顧客との接点を得る。利用者と企業の双方に価値を生む新しい公共インフラを提案する。



03 「next toilet→」の空間ダイアグラム

「next toilet→」は、コンビニやドラッグストア、書店といった商業空間、駅などの公共空間に設けられているトイレや、自治体の公共トイレに設置される。トイレ内には、スポンサー企業の商品がデスターとして設置され、利用者が自由に手に取って試すことができる。企業は設置するデスターの数や内容に合わせて、内装コンセプトを柔軟に変更でき、ブランドイメージの発信空間として活用することが可能。



コンビニ × メイクトイレ



打合せのための移動中

気になっていたコスメとの出会い

気に入った！サイトで買う！

気軽にメイク直しや身だしなみを整えられるトイレ。最新のコスメ商品を自由にデスター利用することができ、その姿のまま、次なるスケジュールへ出向くことができる。新たなコスメ、そして新たな自分と出会うための場所。

駅 × 新聞トイレ



朝の通勤中

トイレに広がる大量の新たな情報

定期利用・購読しようかな

朝の通勤中、ふと用を足すため、アプリを介して入ったトイレは、その日の最新の情報が詰まっている場所。一般紙や専門誌・機関紙を通して、ずっと興味があった分野も、踏み入れて来なかった世界も知ることができる。

04 トイレの広告空間化による事業計画

スポンサー契約や商品出品を企業へ依頼し、トイレを**広告メディア**として利用する。出品企業側は、実店舗とは異なる広告空間と、利用者のリアルな意見の獲得・さらなる購買を促すことができ、また利用者側は、トイレ利用に加え、自身のアップデートのため「また行きたい」目的を持ち、トイレに足を運ぶ。トイレが中心となって、都市における、人々や生活・商品・経済の循環を生み出す。

また専用アプリと多様な使われ方を想定したサブスクを導入することで、並ぶことなく、**清潔で・確実なトイレの利用**を可能にする。

